

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：23803

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K12425

研究課題名（和文）映像と写真から再構築する米国統治下フィリピンの日本人移民：記憶、表象、関係性

研究課題名（英文）Reconstruction of Japanese immigrants in the Philippines under the US rule through films and photographs: Memory, Representation and Relations

研究代表者

米野 みちよ (YONENO-REYES, Michiyo)

静岡県立大学・国際関係学部・教授

研究者番号：20798144

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：1920 - 30年代に米国統治下のフィリピンで百貨店・貿易会社を運営していた松井清衛の撮影した50本の映像および約1000点の写真、およびその他の松井家の資料を分析し、データベース化するプロジェクト。ほぼ全ての映像および一部の写真の撮影場所や時期、内容を特定する作業を行った。メンバーの藤岡の提言により、全ての映像を、ショット毎に分割し、番号をつけて、分析の最小単位とした。一部の映像については、詳細な分析を行った。データベースは映像と写真、地図、などを結びつける仕組みを工夫した。また、映像に登場する当時の日本製品（フィリピンへの輸出品）については、関連企業の関係者と情報交換を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

20世紀前半の在比邦人に関する歴史は、戦争との関連のみで語られることが多い。戦争が始まるずっと前に何十年もこの地域で過ごしていた民間人とその家族の日常生活は忘れられている。本研究では、映画『日本人のわすれもの』（日・英）の上映を国内外で行い、記憶の喚起に貢献した。そして究極的には「記憶は誰のものか」という問いを投げかけた。また、本研究は、2010年代のフィリピン研究における「アメリカの影」の枠組みを再考する機会となった。松家資料郡は、米領フィリピンにおけるマイノリティとしての日本人と、鉱山開発や大規模な木材輸出など帝国主義者（世俗的植民地主義者）としての日本（人）の両方の姿を示唆している。

研究成果の概要（英文）：This is a project to analyze and compile a database of 50 videos and approximately 1,000 photographs taken by Seie Matsui, who ran a department store and trading company in the Philippines during the 1920s and 1930s under U.S. rule, as well as other Matsui family materials. The work involved identifying the location, timing, and content of almost all of the videos and some of the photographs. At the suggestion of Fujioka, all images were divided into individual shots and numbered to form the smallest unit of analysis. Some footage was analyzed in detail. A database was devised to link the images with photographs, maps, and other information. In addition, information on Japanese products of the time (exports to the Philippines) that appeared in the footage was exchanged with related company officials.

研究分野：フィリピン地域研究、音楽学、文化人類学、アジア研究

キーワード：米国統治下フィリピン デジタルアーカイブ フィリピン日系人 「アメリカの影」言説 原資料の再資料化 大阪商会 日比関係史 南進論

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

報告書

1. 研究開始当初の背景

2018年に1920–30年代の米国統治下のフィリピンで、日本人移民の実業家が私的に撮影した貴重な映像（50本、計約4時間）、写真（約2000点）および関連資料の存在が明らかになり（以下、松井家資料）、映像のデジタル化が行われた。代表者（米野）は、2019年に諸資料の管理を引き継ぎ、写真その他の資料のデジタル化を行なった。在比邦人の歴史は、アメリカ帝国史、日本帝国史、フィリピン植民地史、日系移民研究など複数の研究分野の境界に位置し、既存の研究の中で見落とされてきた。また、日米比の三国の関係については、日比を「アメリカの影」（e.g., 藤原・永野 2011; Fujiwara & Nagano eds., 2011）として比較する枠組みが示されてはいるが、20世紀前半における日本の帝国主義的側面を捉えきれておらず、修正が必要である。

2. 研究の目的

- ① 1930年代の米国統治下のフィリピンにおける日本人実業家の撮影した映像の、各カットを、関連した写真などに紐つけたDBを構築し、後世の各分野（映像人類学、民俗学、ポストコロニアル研究、移民研究、日本史、フィリピン史、近代産業・商業史、近代スポーツ史、建築史、南進、等々）の研究者、関係する個人・団体・自治体、一般市民などに使いやすい資料を提供する。
- ② 映像・写真資料、およびそのDB構築のプロセスから、記憶、表象、関係性について、理論的な考察を深める。
- ③ 将来、本研究で構築したDBを使って、近代アジアの歴史・文化・商業・学際的なアーカイブ研究・創造プロジェクトの研究拠点として、大規模のプロジェクトに発展させるための基盤を形成する。

3. 研究の方法

- ① 映像の各カットに関連の写真や情報を紐付けたデータベースを構築する。
はじめに、資料の目録を作成する。次に、関係者らと実際に映像を見ながら、聞き取り/FGDを行い、映像が想起する記憶についての語りを記録する。つまり上映されて初めて資料として命を得る映像の性質を考慮して、アーカイブ作りのプロセスのものを重視する手法を試みる。
- ② 映像・写真資料から、20世紀前半の米国統治下のフィリピンにおける日本人移民の日常を再構築し、二つの帝国・植民地・移民をめぐる記憶、表象、および関係性についての理論的考察を行う。

4. 研究成果

A. 以下のパネル発表を行った。

- Philippine Studies Conference for Young Scholars (PSCYS, 2021)
- The International Congress of Asia Scholars (ICAS, 2021)
- The Annual Conference of the Association for Asian Studies (AAS, 2022)
- The Philippine Studies Conference in Japan (PSCJ, 2022)

B. 以下の事項を確認した。

- a. 松井家所蔵の写真入りフィルム50本（52本から空白フィルム2本を除く）のうち、5本は編集されたものであるが、残りの45本は1本約4分のオリジナルフィルムである。
- b. これらのフィルムはフィリピン各地で撮影されたもので、特に松井家の事業である大阪バザールの本社や支店があったマニラ、セブ、ダバオなどの町や、バギオなど彼が訪れたルソン島北部の地域で撮影された。フィリピン国外で撮影されたものもあるようだ。
- c. ①プロジェクトチームは、コダック社製の各生フィルムの製造年および、それぞれの消費予定日、松井家の子供たちの推測年齢を調べることで、すべてのフィルムのおおよその撮影年を推測した。②さら景観（建物、自動車のデザインやプレート番号など）を参照して、より正確な年代を確認した。③これらの情報から、撮影場所も概ね特定した。
- d. ほとんどの松井家資料の映像はマニラやバギオなどのフィリピンの都市が大規模に開発される直前の1933年から1934年頃に撮影されたものである。
- 1935年以降のフィリピンは、主にアメリカ人によって撮影された動画も含め、比較的よく記録されている。本プロジェクトチームが行なったパネル発表では、松井資料の視点は、確かに「日本的」であり、多くのフィリピン人やフィリピン史研究者が慣れ親しみ、フィリピンの歴史が想像され構築されてきたイメージであるアメリカ人の撮影による映像や写真とは異なるという意味でユニークであることを指摘した。例えば、フィリピンの各地で重要な意味を持つ教会や、アメリカ人が建設した重要なインフラ施設はほとんど撮影されていない。日本人ビジネスコミュニティの日常と非日常、日本人家族の私的なシーンなど、アメリカ主導のフィリピンでは通常疎外されてきた日本人コミュニティを対象としていることが、このコレクションの特徴である。すなわち、松井コレクションは、当時のフィリピン社会の大多数の人々の目から隠されていた一角に光を当てていることを確認した。（e.g., Barriga [分担者]）
- f. Afable(研究協力者)は、松井家コレクションを通じて、1920年代から30年代にかけてフィリピンで日本人移民が写真ビジネスを主導し、その後アメリカ人にそれを引き継いだことを、本調査を通して立証している。彼女はこのことが、ねじれた力関係の

もつれという興味深い学問的問題を提起していることを示唆している。

g. 藤岡(分担者)は、ショットを分析の最小単位とする方法を提案。映像全編にショット毎に番号をつけた字幕を付与した。各ショットに、写真、グーグルマップ上の位置、学術論文(PDFファイル、doiリンクなど)といった関連情報や資料と結びついたデータベースを開発した。

C. 以下の理論的考察を行なった。

1980年代後半以降の社会科学は、知識の客観性と知識生産における非対称的な力関係を根本的に問い直してきた。1990年代には、研究者の立場やインフォーマントとの関係そのものが問いの対象となるような、リフレクティブな研究様式が促された。

2000年代以降、このような実践は、エスノグラフィや他の形態による知の生産において、型にはまらない、よりパフォーマンス的な実験をさらに発展させてきた。この前提のもと、本プロジェクトでは、松井家資料の整理と分析をとおして、歴史的・民俗学的な一次資料は誰のものなのかを問い、データベース制作の意味や倫理的な諸問題について真摯な問いを投げかけた。この問いは最終的に、「記憶は誰のものか」という問いにつながっていった。本研究を通して、私たちは、誰が、誰を、どのような形で、描いているのか、マイノリティとは誰なのか、そして、マジョリティは誰なのかを問うた。私たちはまだこれらの問いに答えておらず、この問いはプロジェクトの次の段階に持ち越されることとなった。

日比米の関係を問う研究としては、2010年から2020年にかけて「アメリカの影」という枠組みが提唱された。フィリピン、アメリカ、日本の三国の関係を考察する枠組みを通して、植民地支配者/被植民者の二元論を打破したことが評価される。

(Fujiwara & Nagano eds. 2011; 藤原・永野 2011; Serizawa 2020)。しかし、日本とフィリピンをともに「アメリカの影」と捉える枠組みは、20世紀前半の日本の帝国主義的な側面を見逃しているという問題があり、本プロジェクトでは、その枠組みを再考した。

本研究を通して明らかになったことの一つは、米領フィリピンにおけるマイノリティとしての日本人の様相である。当時のフィリピンにおいてはどの風景にも英語の看板や標識などが見られ、視覚的イメージのほぼ隅々にアメリカの存在が顕著に現れている。しかし、松井家資料の映画や写真の中に、アメリカ人やアメリカのものはほとんど登場しない。これは、日本人社会が当時のフィリピン社会の主流の空間から孤立していたことを暗示している。その一方で、例えば鉱山開発や大規模な木材の輸出の映像に見られるように、帝国主義(あるいは世俗的植民地主義)としての日本の姿も垣間見ることができる。しかし一方では、なお、この間、日本では南進論に関する研究が進んだ。本研究は、今後も続けられるが、そのような新しい研究の潮流にも一石を投じることができる可能性を秘めている。

ところで、松井家資料研究は、20世紀前半のフィリピンに関する日本語文献と英語文献の間、フィリピン史やフィリピン研究の著作と日本近代史の著作の間の隙間を埋める作業でもある。本研究は、日比米などの研究者たちのネットワーク、を堅固なものとし、今後の研究における国際的なネットワーク強化の基礎を築いた点でも、重要である。



<引用文献>

- Afable, Patricia O., “Contending Visions of Baguio’s Early 20th Century History: Fragments from Japanese Migrants’ Photographic Archives.” Unpublished paper for review. [2023]
- Barriga, Maria Cinthia. “Indexing the Matsui Film Collection: A Plural Approach to History.” Unpublished paper for review. [2023]
- Fujiwara, K. et al. eds, *The Philippines and Japan in America’s Shadow*. National University of Singapore Press, 2011.
- Serizawa, Takamichi. *Writing History in America’s Shadow : Japan, the Philippines, and the Question of Pan-Asianism*, NUS Press and Kyoto University Press, 2020.
- 藤原帰一・永野善子. 『アメリカの影のもとで—日本とフィリピン』法政大学出版局 2011.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 5件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 藤岡洋	4. 巻 17
2. 論文標題 記録と記憶の位置ー2021年に立ってー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 立正大学哲学会紀要	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 藤岡洋	4. 巻 30
2. 論文標題 資料インデックスを目指す動的映像分析とその可能性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アート・ドキュメンテーション研究	6. 最初と最後の頁 19-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Jose, Ricardo T	4. 巻 13
2. 論文標題 Postcards at War: Artworks on Japanese World War II Philippine propaganda postcards	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Murillo Bulletin	6. 最初と最後の頁 13-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Barriga, Maria Cynthia	4. 巻 58-1
2. 論文標題 Book Review: Coral and Concrete: Remembering Kwajalein Atoll between Japan, America, and the Marshall Islands, by Greg Dvorak	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Studies: Journal of Critical Perspectives on Asia	6. 最初と最後の頁 162-165
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤岡洋	4. 巻 NA
2. 論文標題 更新される「記録 = 記憶」に挑むデジタルアーカイブは可能か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 8ミリフィルムの旅: 極私的秋田の日常 (秋田フィルムアンソロジー)	6. 最初と最後の頁 62-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Jose, Ricardo T.	4. 巻 NA
2. 論文標題 Philippine Assistance to Japan after the Great Kanto Earthquake, 1923	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Liberating the Chawan: Celebrating the Golden Age of Philippines-Japan Friendship. Pinto Art Museum, 2022	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Jose, Ricardo T.	4. 巻 NA
2. 論文標題 July 4, 1946: The Philippines Gained Independence from the United States	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 National World War II Museum (US)	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kitada, Eri	4. 巻 NA
2. 論文標題 What We Forget When We "Remember Pearl Harbor"	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Washington Post, December 7, 2021	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kitada, Eri (北田依利)	4. 巻 NA
2. 論文標題 Rethinking Japan's Attack on the 'Pearl Harbor' from the Perspective of Japanese Filipinos (In Japanese: 「真珠湾」攻撃80周年をフィリピン日系人の視点から再考する)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Synodos, December 8, 2021	6. 最初と最後の頁 —
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kitada, Eri	4. 巻 NA
2. 論文標題 Japanese Mixed-Race Children in the Philippines, Then and Now	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Not From Here: Immigration and Ethnic History Society Online, August 13, 2021	6. 最初と最後の頁 —
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

[学会発表] 計54件 (うち招待講演 26件 / うち国際学会 44件)

1. 発表者名 Sugaya, Nariko
2. 発表標題 Japanese business and migrant communities in the U.S. colonial Philippines
3. 学会等名 5th Philippine Studies Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2022年 ~ 2023年

1. 発表者名 Jose, Ricardo T
2. 発表標題 The Philippines in the early 1930s as seen through Japanese home movie
3. 学会等名 5th Philippine Studies Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2022年 ~ 2023年

1. 発表者名 Barriga, Maria Cynthia
2. 発表標題 Cracks in the Moving Curtain: Davao beyond Dabao-kuo
3. 学会等名 5th Philippine Studies Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Afable, Patricia Okubo
2. 発表標題 Border-crossing Adventures in Baguio Japanese Studio Photography: A Counterpoint to S. Matsui's Baguio Film
3. 学会等名 5th Philippine Studies Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Yoneno-Reyes, Michiyo
2. 発表標題 Who Owns Memory?: Actors and Relations in Archiving a Private Collection
3. 学会等名 5th Philippine Studies Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 秦 優莉香 / 藤岡 洋
2. 発表標題 映像記録の再資料化 - 1970年代の西北タイ調査事例から -
3. 学会等名 大学博物館が語る、地球と人類のヒストリー (2022年度 名古屋大学博物館・南山大学人類学博物館連携講座 (招待講演))
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 藤岡洋
2. 発表標題 史料になった記録映像の特徴と分析法について
3. 学会等名 アート・ドキュメンテーション学会
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Maria Cynthia C. Barriga
2. 発表標題 Asia-Pacific War in Southeastern Mindanao: Comparing Japanese and Filipino Stories in Davao City and NLSA
3. 学会等名 The 5th Philippine Studies Conference in Japan (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Maria Cynthia C. Barriga
2. 発表標題 Polarized War Histories of Davao: Filipino-Japanese Local Relations amid Successive Empires, 1940s
3. 学会等名 43rd National Conference on Local and National History, organized by the Philippine National Historical Society (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 The Battle of Manila: Tragic End of Three Years of Japanese Occupation
3. 学会等名 MINT College special online lecture (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 Historical Notes on the Liberation of Muntinlupa in 1945
3. 学会等名 Muntinlupa 78th anniversary Liberation Day commemoration, Muntinlupa City (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 Historical Memory and Asia's Regional Peace and Security
3. 学会等名 National Defense College of the Philippines lecture (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 World War II and the Japanese Occupation of the Philippines, 1941-1945
3. 学会等名 Museum Volunteers of the Philippines online lecture (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 The Japanese Occupation Years in Bikol, 1941-1945 Keynote Address
3. 学会等名 First SAYSAY Bikol Annual Conference, St Vincent de Paul Auditorium, Naga City (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 Looking back after seven decades: Recent books on the Japanese Occupation and World War II in the Philippines
3. 学会等名 5th Philippine Studies Conference in Japan conference (online) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 Living under the Rising Sun: Fighting in the Philippines
3. 学会等名 National World War II Museum annual conference, New Orleans, Louisiana (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 Resisting Mickey Mouse: Philippine Emergency and Guerrilla Currency during World War II
3. 学会等名 Bangko Sentral ng Pilipnas special lecture (recorded; to be placed online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 Voices of Resistance and Hope: The Voice of Freedom and the Voice of Juan de la Cru in 1942
3. 学会等名 University of the Philippines College of Mass Communication, 100 Years of Broadcasting in the Philippines (online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 Guiuan as a Naval and Air Base in World War II
3. 学会等名 Philippine National Historical Society 48th National Conference on Local and National History, Guiuan, Samar (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 'You are Our Pals': Japanese Propaganda Leaflets and Posters in the Philippines during World War II
3. 学会等名 Philippine Map Collectors Society webinar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 Revisiting the Role of the Philippines in the Korean War
3. 学会等名 UP Arirang Philippine-Korean Youth Forum. (Online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 Historiography of the Philippines during World War II and the Japanese Occupation
3. 学会等名 Philippine Veterans Affairs Office Kagitingan Historical Webinar Lectures (online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 The Zero Hour: How and Why the Philippines Got Involved in WWII
3. 学会等名 Wha Chi Veterans Descendants webinar, "Remembering Wha Chi: 80th Anniversary Commemoration" (online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. Jose
2. 発表標題 The Banal Regiment: Only Huk Unit to be Recognized by the US
3. 学会等名 Kapampangan Studies Center, "Tepangang at Tetagan a Lub: 80th anniversary of the Days of Valor" webinar (online) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Patricia O. Afable
2. 発表標題 The Harold C. Conklin Research Collection: A Legacy to Philippine Studies of Environment, Language, and Culture
3. 学会等名 Philippine National Historical Society 48th National Conference, Guiuan, Samar (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Michiyo YONENO-REYES (米野みちよ)
2. 発表標題 Baguio Footage
3. 学会等名 第26回フィリピン研究会全国フォーラム
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Michiyo YONENO-REYES (米野みちよ)
2. 発表標題 Baguio Footage:Matsui Film Collection #49
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Michiyo YONENO-REYES (米野みちよ)
2. 発表標題 Matsui Collection Overview
3. 学会等名 Annual Conference, Association for Asian Studies 2022 (AAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 藤岡洋
2. 発表標題 資料インデックスとしての動的映像の可能性
3. 学会等名 アート・ドキュメンテーション学会年次大会
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 藤岡洋
2. 発表標題 デジタルアーカイビングで旅することは可能か？
3. 学会等名 明日NET (第205回)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Hiroshi HUZIOKA (藤岡洋)
2. 発表標題 Deep Indexing of Moving Images for Digital Archiving
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 藤岡洋
2. 発表標題 記録と記憶の位置：2021年に立って
3. 学会等名 立正大学哲学学会2021年度大会（特別企画：吉田夏彦先生を偲んで）（招待講演）
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Hiroshi HUZIOKA (藤岡洋)
2. 発表標題 Introduction of Digital Archiving-For Indexing of Non-Edited Moving Images
3. 学会等名 Annual Conference, Association for Asian Studies 2022 (AAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Maria Cynthia BARRIGA
2. 発表標題 Davao: Going beyond "Davao-kuo"
3. 学会等名 第26回フィリピン研究会全国フォーラム
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Maria Cynthia BARRIGA
2. 発表標題 Davao
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Maria Cynthia BARRIGA
2. 発表標題 Davao: Unpacking and Repacking Japanese Migrants in the US-Ruled Philippines
3. 学会等名 Annual Conference, Association for Asian Studies 2022 (AAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Maria Cynthia BARRIGA
2. 発表標題 Narrating Davao's World War II History
3. 学会等名 HISTORiA Kita (organized by Hijos Tours)(August 14, 2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Ricardo T. JOSE
2. 発表標題 July 4, 1946 Philippine Independence Day: Remembering what Happened 75 Years Ago. April 23, 2021
3. 学会等名 Museum Volunteers of the Philippines special lecture (online) (April 23, 2021) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Ricardo T. JOSE
2. 発表標題 Manila in the 1930s through Japanese Eyes
3. 学会等名 第26回フィリピン研究会全国フォーラム(YSCPSJ)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Ricardo T. JOSE
2. 発表標題 One Japanese Who Made a Difference: Mr. Kiyoshi Osaw
3. 学会等名 The 65th Anniversary of the Normalization of Philippines-Japan Relations conference (International Studies Department, de la Salle University (招待講演) (国際学会))
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Ricardo T. JOSE
2. 発表標題 Manila in the early 1930s through Japanese Eyes” (different focus from YSCPSJ)
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Ricardo T. JOSE
2. 発表標題 Wartime Postcards: Japanese Artists View World War II in the Philippines
3. 学会等名 Vessel: The Jung Art Collective and Carl Jung Circle Center special lecture (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Ricardo T. JOSE
2. 発表標題 Reformists and Revolutionaries: Filipinos View Japan. 1880s-1980s
3. 学会等名 JSA-ASEAN (Japanese Studies Association - ASEAN) e-conference plenary session (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Ricardo T. JOSE
2. 発表標題 The Philippines: The Aftermath of the War - Challenge and Hope amidst Despair
3. 学会等名 Lecture for Museum Volunteers of the Philippines (February 16, 2022) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Ricardo T. JOSE
2. 発表標題 Manila in the 1930s through Japanese Eyes” (different focus from previous presentations)
3. 学会等名 Annual Conference, Association for Asian Studies 2022 (AAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Ricardo T. JOSE
2. 発表標題 The Zero Hour: How and Why the Philippines became involved in WWII
3. 学会等名 Wha Chi [Chinese WWII guerrilla group] 80th Foundation Commemoration webinar (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Ricardo T. JOSE
2. 発表標題 Kagitingan [Valor] PVAO [Philippine Veterans Affairs Office] Historical webinar series 2022
3. 学会等名 Kagitingan [Valor] PVAO [Philippine Veterans Affairs Office] Historical webinar series 2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年～2023年

1. 発表者名 Eri KITADA (北田依利)
2. 発表標題 The Peril and Promise of Education: Japanese Settlers' Schooling in Davao, the American Philippines
3. 学会等名 The 75th GJS Seminar, Global Japan Studies at the University of Tokyo, online (招待講演)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Eri KITADA (北田依利)
2. 発表標題 Japanese Migrants' Education in a Frontier, the American Philippines: A Focus on the Mixed-Race Question
3. 学会等名 The 12th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Eri KITADA (北田依利)
2. 発表標題 Intimacies through Japanese Schooling, the U.S. Colonial Philippines
3. 学会等名 The 2021 American Studies Association Annual Meeting, online (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Eri KITADA (北田依利)
2. 発表標題 Remembering and Questioning “ Pearl Harbor ” : Japanese Migration in the American Philippines
3. 学会等名 Filipino Language & Culture Program, the University of Hawai'i, online. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Eri KITADA (北田依利)
2. 発表標題 Conjugal and Civil Modernities: A Case Study of Japanese Settlement in Davao, the American Philippines
3. 学会等名 Tobunken-GJS Lecture Series, Institute for Advanced Studies on Asia, The University of Tokyo, online (招待講演)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Eri KITADA (北田依利)
2. 発表標題 Filipino Wives and the 1930s Japanese Land Question in the American Philippines
3. 学会等名 Annual Conference, Association for Asian Studies 2022 (AAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

1. 発表者名 Patricia O. Afable
2. 発表標題 Mr. Matsui 's Baguio: Charting a Japanese Place
3. 学会等名 Annual Conference, Association for Asian Studies 2022 (AAS) (国際学会)
4. 発表年 2021年～2022年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 アイリーン・C・デ・ロブレス、エベリーナ・M・ピロリア、マリア・アナリン・P・ガブアット、メアリー・クリスティン・F・キソル、チョナ・P・レイグ、ドロレス・マリア・H・トルクアートル、佐竹 眞明、菅谷 成子、玉置 泰明	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 304
3. 書名 フィリピンの歴史 (菅谷成子 分担翻訳: 5年生3、4部、6年生第1部)	

1. 著者名 Pobre, Cesar P. and Jose, Ricardo	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Quezon City: Philippine Veterans Affairs Office	5. 総ページ数 -
3. 書名 Guerrilla Days in the Philippine South 1942-1945	

1. 著者名 大塚英志、藤岡洋 他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 水声社	5. 総ページ数 26
3. 書名 運動としての大衆文化	

1. 著者名 Jose, Ricardo T. (Amos, Timothy D. And Ishii, Akiko, eds.)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 8
3. 書名 Revisiting Japan 's Restoration: New Approaches to the Study of the Meiji Transformation	

1. 著者名 Pobre, Cesar P. and Ricardo T. Jose	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Philippine Veterans Affairs Office, Department of National Defense	5. 総ページ数 600
3. 書名 Guerrilla Days in the Philippine South: 1942-1945	

〔産業財産権〕

〔その他〕

本プロジェクトは、2024年度に、基盤研究(B)「米領フィリピンにおける日本人商業活動と大阪貿易会社関連資料のデータベース化」(代表 米野みちよ)として、継続される。2024年3月現在で、まだ試作的であるデータベースをより情報を網羅し、かつ、使いやすいものに改善する。また、この間、日米比において、さまざまな関係者のかたたちと、映像の上映とFGDを重ねていくことを計画している。また、資料のインデックス化や、映像の4K化、可能であればカラー化の試みなども、計画されている。

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	菅谷 成子 (Sugaya Nariko) (90202126)	愛媛大学・法文学部・客員教授(非常勤講師) (16301)	
研究分担者	藤岡 洋 (Huzioka Hiroshi) (80723014)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・特定研究員 (14301)	
研究分担者	バリガ マリア・シンシエア (Barrifa Maria Cybthia) (10895428)	早稲田大学・グローバルエデュケーションセンター・助教 (32689)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡田 泰平 (Okada Kohei) (70585190)	東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	アフアブレ パトリシア (Afable Patricia O.)	Yale University	
研究協力者	ホセ リカルド (Jose Ricardo T.)	University of the Philippines Diliman・Professor Emeritus	
研究協力者	北田 依利 (Kitada Eri)	Rutgers University	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Matsui Family Archive Workshop (online, July 2, 2022)	開催年 2022年～2023年
---	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	Yale University			
フィリピン	University of the Philippines			
フィリピン	University of the Philippines			
米国	Yale University			
米国	Rutgers University			